

篠原幸雄からやましたゆきおへ

マンガと生きた50年

25

突然の
税務調査



ネット配信版・新つれづれ草に掲載の「マンガと生きた50年」は、東京都江東区・森下文化センターにて2017年10月20日（金）から29日（日）の会期で開催しました、新つれづれ草マンガ展「篠原幸雄からやましたゆきおへ マンガと生きた50年」で展示した展示物を再構成したものです。

おやじマンガ同人誌

マンガ展

新つれづれ草

マンガと生きた50年

篠原幸雄からやましたゆきおへ



おやじマンガ同人誌「新つれづれ草」の山下幸雄は1970年少年ジャンプから篠原幸雄としてマンガ家デビューその後、マンガ家、デザイナー、編集者としての立場を変えながらマンガとの関わりを持ち続けて生きてきたそして今再び、やましたゆきおとしてマンガを描き始めた！

入場：無料

日時：10月20日（金）～10月29日（日）
午前9時より午後9時まで（最終日は午後5時まで）
会場：森下文化センター1F展示ロビー
お問合せ：森下文化センター
〒135-0004 東京都江東区森下3-12-17
TEL03-5600-8666 FAX03-5600-8677
都営地下鉄新堀線・大江戸線「森下」駅A6出口より徒歩8分
都営大江戸線・東武メトロ半蔵門線「清澄白河」駅A2出口より徒歩8分
<http://www.kcf.or.jp/>

主催・新つれづれ草 共催・森下文化センター





25、突然の税務調査

経営方針は借金をしない

現金収入、現金払いで借金をしない。

ワークハウスを作った時にこれだけは守ろうと決めていました。

ふしぎな仲間たちの失敗を繰り返したくなかったからです。

私は仕事ごとに収入と支払いがひと目で分かる書類を作りました。

A4判の用紙に、仕事をした本の名前、出版社名、編集費の金額、振込予定日（振込日）、外注でお願いした方のリストと仕事の内容、支払い金額、

支払い日（予定日）を一覧で記入してある書類で、それを経理に渡して現金処理をお願いしていました。

仕事は増えていましたしそれに協力してくれる外注の人も増えていました。でも、外注費が入金金額を超えることは絶対無く、全部の仕事が黒字になっているはずでした。

会社設立から三年を過ぎるころになると、税理士からは、売上が増えているので税金対策をしなければダメだと、しつこく言われていました。

しかし、編集費は予定通り入金されているのに、

支払い日に会社に現金が足りなくなることがしばしば発生していました。

私はどうしてそうなるか理解できずに、追いつめられて、親しいデザイナーやライターの方に電話をして、支払い日を1カ月待ってもらいたいとお願ひして切り抜けていました。

突然現れたヨーダ

三回目の決算を終えた後だったと記憶しています。会社の前に突然現れたスターウォーズのヨーダの様な、小柄なじいさん。

それは、何の予告も無く、一人で会社に来た税務調査官でした。

そのじいさんを1階の一番小さい部屋に通し、会社スタッフには私以外誰も入ってこない様に伝えました。

出版社との現金取引、外注への現金払いで、何も疾しい事の無い私は、会社の帳簿と仕事ごとの細かい入金支払いの書類を「何か文句あるなら言ってみろ」と言わんばかりに叩きつけました。

ヨーダは、しばらく帳簿と書類を付け合わせるように見ていました。全部見た後で、じいさんは入金支払いの書類を示して、「これはだれが書いているのか」と聞いてくるので「私が全部決めて作っています」とこたえました。外注費の支払い日を書き直してある部分を示して「ここを書き直したのは、誰ですか」と聞いてくるので「現金が足りなかったのが私が書き直しています」と正直に答えました。

するとじいさんは「君は脱税をしているね、正直に認めて修正申告をしなさい」と言い出しまし

た。

私は脱税なんて身に覚えの無いことだったので「何バカなことをいつているんだこのじいさんは」と思い、しばらく黙っていました。

するとじいさんは「この書類は脱税の証拠になる、さつさと認めなさい」「さもないと悪質な脱税行為で君を逮捕することになるが、それでもいいか」と脅してきました。

私は知識も無く何も反論出来ないで、逮捕という言葉に恐怖を感じて、修正申告をじいさんの言うままに受け入れてしまいました。

税務調査はその後、毎年来る様になりました。

翌年からは、毎回違う税務調査官でしたが、税理士に先に連絡があり、税理士立ち会いで税務調査になりました。

毎年、重箱の隅をつつくようなミスを見つけて、その度に修正申告をして。税務調査官は僅かの金を巻き上げて帰って行きました。

もちろん法律的には私の方が間違っていたので、反論することは出来ません。

何年続いたかはつきり覚えていませんが、いつのまにか税務調査は来なくなりました。

これは私の想像ですが、ワークハウス創立当時からお願ひしていた個人の税理士さんから、銀行から紹介された税理事務所に変えたあたりから、税務調査官は来なくなった様な気がします。

税金対策

税理士からは年度末になると、利益が出てしま

という莫大な借金をして中古マンションの一室を購入してしまうことになったのです。

この借金が、この後ワークハウスの経営に大きな影を落として行くことになってしまいました。

うから税金対策をしろと言われ、よく分からない私は、言われるがまま税金対策のために、海外に社員旅行で行って、現金を使ったりしました。

今かんがえると、必要な税金は支払って、会社になしでも現金を残すべきだったと思います。本当にバカなことをしていました。

「税金対策に不動産を購入すれば、それが担保になつて運転資金の借り入れもスムーズになる」と、税理士と銀行と不動産屋と保証協会が口を揃えて薦めてきました。

不動産屋は「このマンションはお買い毒です」東京都の保証協会は「この不動産の価値は保証します」銀行は「当行が融資します」と。

この三社にすっかり騙されて、私は住宅ローン